

立ち読み版



学校法人大原学園 理事長

なかがわ

かずひさ

中川 和久さん

1956年、石川県出身。中央大学法学部在学中より公認会計士を目指し、大原学園で学ぶ。大学卒業後、資格取得の勉強を続けながら、1983年に大原学園に入職、講師として生徒の指導を行う。1990年に公認会計士試験に合格後も、大原学園での教職員の仕事を選ぶ。2007年に理事就任、2017年より理事長を務める。

【写真】安岡 喜

## 「本気になったら大原」の強みとは —— 実学と人格育成で「幸せな就職」を提供する

【取材・文】原 正紀

株式会社クオリティ・オブ・ライフ代表取締役・高知大学客員教授・名城大学非常勤講師。中小企業診断士。早稲田大学法学部卒業後、大手メーカー、株式会社リクルートでの勤務を経て、独立。産学公個に対し、採用・育成・人事制度構築など、人材関係の幅広い提案を行う。著書に「採用氷河期」(日本経済新聞出版社)、「優れた企業は日本流」(扶桑社)、「インタビューの教科書」(同友館)など多数。

HARA'S  
BEFORE

「本気になったら大原」は、印象的なキャッチコピーだ。それは生徒のみならず、受け入れ先の企業にも響く。資格取得と就職サポートをする専門学校として、優れたマーケティング力と、教育機関としての発信力のセンスを感じさせる大原学園。中川さんは、学生たちの「幸せな就職」を目指して全国展開を推進し、80校以上に上る一大グループに育て上げた。その巧みな手腕に迫った。

### 「幸せな就職」をもたらす教育プログラム

原：「本気になったら大原」のキャッチフレーズが印象的ですが、まずは学園の教育方針をお聞かせください。

中川：最終的な教育目標に「幸せな就職」を掲げています。1つめは、社会に貢献している企業、組織、職業に就くこと。2つめは、可能な限り正社員で採用されること。そして、3つめは最低3年間、学生自らが退社することのない企業等に就職することです。すなわち、「定着して活躍する人材を、できるだけ多く世に出す」ことをテーマにしています。

Kazuhisa Nakagawa  
|  
Umano!

それを実現するために、「実学教育」と「人格育成教育」を2本柱に置いています。実学教育は、実務で要請される専門知識、技能を学ぶことはもちろん、その習得レベルを第三者にアピールできるように資格試験、検定試験の合格も重視しています。人格育成教育においては、社会人、組織人として保有すべき最低限の一般常識、ビジネスマナー、そしてコミュニケーション能力を育成することに力を注いでいます。

経営のミッションとしては、「地方の活性化」も大切にしています。学びにおける都市と地方の格差を埋め、地方の18歳人口の県外流出を食い止めることが地方の活性化に役立つと考えています。当学園では、平成19年から福井県を皮切りに地方で学校を設置してきました。今年4月からは岡田に、来年には広島に学校を設置する予定です。

原：地方創生の流れにも乗っていますね。

中川：提携校を含めて都道府県の約65%をカバーしています。今後は、インターネットを活用した教育へとシフトすることで、地方での学びの機会を提供していきたいと考えています。現在、日本では70万人を超えるニートの若者がいると言われています。インターネットでの学びの機会は、彼らにも実社会に参加するチャンスになるのではないのでしょうか。

大原学園は、大原簿記学校として1957年にスタートしました。現在では簿記会計をはじめ、

企業診断 2020/8

続きは雑誌で

